

令和4年1月～12月 多職種連携研究会実績

圏域	包括	開催日	開催場所	実施内容	参加者 (職種別参加人数)	成果
1	社協こもれび	令和4年12月13日 13:30～15:00	くずは生涯学習市民センター大集会室	【テーマ】 「自立を支える資源」 【内容】 ①資源説明(薬剤師・銀行マン・おたすけ隊) ②事例紹介 ③グループワーク	医師(1) 歯科医師(1) 薬剤師(9) ケアマネ(5) ヘルパー(0) 訪看(1) 通所(5) 施設(0) 市役所(3) 社協(1) 包括(5) その他(1) 合計(32)	「自立」について参加者の捉え方の違いを実感し、専門職の立場の違いにより視点の相違があることに気づけた。インフォーマル資源紹介については、「目からウロコだった」と反応があるほど、サービスの種類が多岐に渡っていることを実感できた。感染防止対策を講じ、2年ぶりにグループワークを実施、よくある事例を検討した。ケースを支えるための資源に関する意見交換では大いに盛り上がり、取り組みの必要性など具体的な意見も飛び交った。気づきやアイデア、また未来像への提案等も共有できた。顔を見ながらのグループワークの良さが発揮できていたと考える。終了後のアンケートも高評価であり、人との繋がりの大切さ、ネットワーク構築の重要性を改めて意識できた会議となった。
2	社協ふれあい	令和5年2月16日 14:00～15:00	楠葉生涯学習市民センター	【テーマ】 「在宅医療について」 【内容】 ①医師による講義 在宅医療の現状、在宅医療に求められる連携を確認	計(38)	
3	聖徳園	令和4年8月	アンケート	【テーマ】 「介護が必要になっても安心して暮らせる地域づくり」 【内容】 「高齢者が住みやすい街づくり」をテーマに、介護保険事業所共同による地域向けイベントを企画している。コロナ禍のため会議は開催せず、介護保険事業所へのアンケートを実施。事務局や事業所として協力出来る内容(研修会講師や測定会・福祉用具展示会開催等)を把握した。	医師(2) 薬剤師(1) 相談員(2) ケアマネ(8) ヘルプ(8) 訪看(2) 通所(5) 福祉用具(1) 施設(9) 計(38)	このアンケートで、事務局に参加⇒11事業所、研修会の講師や手伝い⇒15事業所、家族向けの介護方法の講師や手伝い⇒15事業所、高齢者の介護予防の講師や手伝い⇒6事業所、出張相談会の開催⇒8事業所、測定会の開催⇒2事業所、福祉用具の情報⇒1事業所、認知症カフェ⇒2事業所、情報発信⇒3事業所、その他⇒1事業所の協力の申し出があった。
4	安心苑	令和4年11月28日 14:00～16:00	教育文化センター	【テーマ】 「在宅での看取り」その時自分が担えること 【内容】 ①医師による講義 ②看取りの事例でグループワーク	医師(2) 相談員(1) 病院看護師(1) ケアマネ(4) ヘルプ(1) 訪看(5) 通所(3) 施設(1) 市役所(1) 包括(3) その他(1) 計(23)	地域包括ケアシステムの構築に向け、これから増えるであろう「在宅での看取り」をテーマに研究会を開催。医療・介護の密な連携が必要との意見と共に、関係機関が同じ方向で支援を行うには、ご本人・ご家族の意思確認が重要であるとの意見が多かった。ACP(人生会議)の必要性を感じるが、講師から、医師であっても切り出すタイミングは難しいとの意見があり、改めてACPの普及啓発の必要性も感じた。また、認知症の方のACP、独居の方のACP、家族内で意見が異なる時のACP等をテーマに、第2弾開催を希望する声が上がっている。
5	サール・ナート	令和4年11月30日 14:00～16:00	枚方市保健センター3階健康相談室	【テーマ】 介護と医療、それぞれの立場から考える「在宅での看取り」 【内容】 ①訪問看護と訪問介護の在宅見取り事例を紹介 ②グループワーク	歯科医師(1) 薬剤師(6) 相談員(3) 病院看護師(1) ケアマネ(11) ヘルプ(1) 訪看(5) 通所(1) 福祉用具(1) 市役所(1) 包括(4) その他(1) 計(36)	今後増加していくと思われる在宅看取りには、医師・訪問看護師だけでなく他の職種との連携が必要になる。職種によっては在宅看取りの経験がほばない場合もあった。グループワークの時間を十分に取ったことで、初対面の参加者、経験年数の違いがあっても積極的な意見交換する余裕を持てた。参加者のアンケートからは「普段は交流しにくい職種と意見交換できる貴重な時間」や「顔を見て話す機会を持ちたい、次回も参加したい」などの感想をいただいた。過半数の方から今後の業務に活かせるとの回答を受け、開催の手ごたえを感じている。
6	松徳会	令和4年2月10日 14:00～15:30	ハイブリット松徳会会議室	【テーマ】 「歯科と多職種の連携」 【内容】 ①歯科医師による講義 ②事前に「歯科医師への質問」を多職種から募集・回答	医師(2) 歯科医師(5) 薬剤師(7) 相談員(3) ケアマネ(7) ヘルプ(1) 訪看(3) 通所(4) 施設(2) 市役所(1) 包括(3) その他(1) 現地(9) オンライン(30) 計(39)	一部では、KDBシステムや在宅訪問歯科健康診査や歯科保健に興味深いという意見が寄せられた。二部では、訪問歯科診療の実際について、スライドを用いて具体的な説明があり、医療保険と介護保険の訪問診療について、口腔ケアの重要性を理解できた。質疑応答は、事前に参加者へ質問を募り、質問内容と質問者・返答者がオンライン上で写るように設定し、リアルタイム感を出す工夫をした。また、抜歯にあたっては骨粗鬆症薬を休薬すること、認知症患者や拒否の強い患者、歯の無い方や食べるときに入れ歯を外す方への対応等、日々支援している職員の困り事の実例を共有できた。歯科医師も苦慮しながら信頼関係を作り、個性を重視して対応していることもわかった。歯科医師から、「訪問診療をした後『食量が増えた』などの様子が聞けるとありがたい。訪問介護・訪問看護に入られた方が気づかれたことを情報共有できたら治療に活かせる」とのご意見があり、大変興味深かった。アンケート集計結果においても、「満足」「大変満足」が100%だった。
6	松徳会	令和4年6月23日 14:00～15:30	ハイブリット松徳会会議室	【テーマ】 「薬剤師と多職種の連携」 【内容】 ①薬剤師による講義 ②事前に「薬剤師への質問」を多職種から募集・回答	医師(2) 歯科医師(4) 薬剤師(10) 相談員(5) ケアマネ(10) ヘルプ(1) 訪看(2) 通所(3) 施設(2) 市役所(2) 包括(3) その他(4) 現地(11) オンライン(37) 計(48)	オンライン開催・オンライン参加に慣れてきたこともあり、大きなトラブルもなく開催できた。一部では、薬剤師にできること、かかりつけ薬局、リフィル処方箋(最新情報)などについて詳しく講義してもらった。二部では、あらかじめ多職種から収集した質問に、薬剤師から回答してもらった。さらに、薬剤師からは、連携方法や欲しい情報などの質問があり、それに医師・歯科医師・ケアマネジャー・訪問看護師が答えるなど、大変活発な意見交換が行えた。「長期の入院や施設入所をした場合、医科・歯科・薬局への情報が届かず心配することも多い」、「情報共有ができるノートがあれば」等、お互いに連携の必要性を強く感じる事ができた。終了後のアンケートでも、「大満足」「満足」が95.8%であった。
7	美郷会	令和4年11月16日 13:30～15:00	オンライン	【テーマ】 「地域の困り事に対するCSWの関わりについて」 【内容】 ①CSWによる講義 ②グループワーク	歯科医師(1) 薬剤師(9) 病院(1) 医療PT(1) ケアマネ(8) 訪看(1) 通所(5) 訪問介護(2) 福祉用具(2) 介護保険施設(2) 市役所(2) 包括(6) 民生委員(6) 計(46)	今回は地域の民生委員に参加してもらい、その役割や活動、地域で起こっている問題について、介護・医療スタッフに伝えることができ、大きな成果となった。地域からも、専門職からも、今後起こりうる重層的課題・ケアにおいて、「より身近に連携がとれるんだ」といったような自信と心強さが伺える感想・意見が多く寄せられた。また、このままではいけないのでは、と疑問や課題に気づき、対策や行政との連携等、今後につながる意見もあがった。各関係機関がそれぞれの立場で、今とこれからも含めた視点に気づき、考える機会となったことは素晴らしい成果であった。
8	みどり					
9	アイリス	令和4年3月17日 14:00～15:30	オンライン	【テーマ】 「高齢者の孤立を防ぐまちづくり」～地域との繋がりを考えよう～ 【内容】 「他市から転居後の1人暮らし男性」の事例を通して ・地域の実情 ・専門職の立場で何が出来るか ・高齢者と地域との繋がりを作るために何が出来るか	医師(2) 歯科医師(3) 薬剤師(4) ケアマネ(9) ヘルプ(1) 訪看(1) 通所(4) 施設(1) 府営・UR管理(3) 民生委員(3) 市役所(1) 包括(2) その他(1) オンライン(35) 計(35)	今回は、高齢者の孤立防止を目的に「地域との繋がりを考える」をテーマに研究会を開催した。地域住民(校区長)が参加、地域の実情について専門職に周知する機会となった。また、他市から子どもを頼ってUR住宅に転居する高齢者も増えており、UR生活支援アドバイザーも参加、活動や連携についても共有することができた。見守り110番事業について再度周知し、薬剤師の見守りにより包括に繋がったケースの共有など他機関との連携についても周知できた。また、徘徊している高齢者を発見した時の対応についても情報共有できた。今後困ったケースがあれば包括へ相談し、連携していくことについても改めて周知でき、地域の見守り体制の強化に繋がったと考えている。
10	高齢者生協	令和4年3月16日(水) 15:30～16:30	大阪高齢者生協事務所内	【テーマ】 「コロナ禍における対象者への関わり 連携のコツをつかむ」 【内容】 事前アンケートをもとに共通する事例を用いた意見交換会	薬剤師(1) ケアマネ(1) 通所(1) 訪問介護(1) 包括(2) 計(6)	コロナ禍の中、生活様式の変容等踏まえ、現状の共有と業務の中で新しく生まれた連携のかたち、利用者を取り巻く環境から見てきたもの、今後の動向などを話し合った。久しぶりに対面顔合わせを行うことができ、改めて対面開催の効果を感じた。事例検討会等を通し、医療関係者をはじめ多職種がもっと身近に顔を合わせる機会設ける必要性を再認識した。
11	パナソニック	令和4年3月3日 14:00～15:30	菅原生涯学習市民センター	【テーマ】 「11圏域版 介護者家族の会立ち上げに向けて」 【内容】 ①「介護者家族の会の立ち上げに向けて説明」 ② 3グループに別れそれぞれの専門性で出来ることの意味をディスカッション	歯科医師(1) 薬剤師(6) その他(1) 相談員(1) ケアマネ(4) 訪看(3) 通所(1) 市役所(1) 包括(4) 現地(6) オンライン(16) 現地(6) 計(22)	介護者家族に関して包括からの提案、関係機関より、それぞれ意見や感想をもらった。また、オレンジカフェの開催等が難しく紹介先が少なくなっている現状やお互いのサービスで知らない点等について情報共有し、「意見交換できてよかった」と前向きな意見も寄せられた。包括主催の家族会については、専門職の参加等、今後の協力を依頼できた。
12	大潤会	令和4年3月15日 14:00～15:30	オンライン	【テーマ】 「コロナ禍の連携について」 【内容】 介護保険事業所より新型コロナウイルス感染者発生時の対応報告、総合病院よりコロナ禍の地域支援について、地域包括支援センターより総合相談の推移についての報告を行う「地域の事業所連携について」	歯科医師(1) 看護師(2) 薬剤師(3) ケアマネ(11) 通所(1) 訪問介護(1) 施設(2) 市役所(1) 包括(3) 計(26)	参加者より、「実際のクラスター時の対応や事例を聞くことができ参考になった」「明日は営業できるのか」と不安な気持ちを抱えて業務をしているのは自分だけではなかった」「職種の異なる方からの助言がためになった」等の感想があった。各専門職がコロナ禍の中どのように業務を行っていたかの情報共有、理解は図れたが、具体的な連携の検討は今後の課題となった。
13	東香会	令和4年3月実施	アンケート	【テーマ】 「コロナ禍以降の状況について」 【内容】 ・13圏域の病院・訪問看護・訪問介護・通所介護・通所リハビリ・ケアハウス・小規模多機能にアンケートを送付。 ・コロナ感染症による弊害、フレイル等の問題など、それぞれの専門職が困ったこと、またそれぞれの事業所ができることや工夫してきたこと、どのように連携しているかなどをアンケート内容とし、集計した。	相談員(3) ケアマネ(12) ヘルプ(9) 訪看(3) 通所(16) 施設(3) 包括(1) その他(3) 計(46)	コロナ禍のため、アンケートを実施。13圏域56事業所へ配付、46事業所から回答があった。アンケート内容は、コロナ禍での地域住民や利用者様の変化、困ったことや工夫されたこと、地域の取り組みや対応策、連携方法、今後の取り組みについて。結果、各事業所共に感染予防に努め支援していたが事業所間での連携が必要なこと、活動制限により、身体機能・認知機能低下が顕著にみられていることを把握した。新型コロナウイルス感染症に罹患した場合、行政も混乱している中、受け入れ先や対策などに苦慮していたことなどがわかった。今後まだまだ続くコロナ禍や災害時に、多職種がどのように連携を持ち取り組めばいいのか、検討内容として今後に生かせるアンケート結果となった。

運営上の課題
コロナ禍の課題
現地開催の会議を中止し、代わりにアンケートを取ったが、今後コロナ禍において、こういった形態で取り組んでいくのが課題となっている。
コロナ禍で制限がある状況でも、グループワークを中心に対面での会議実績を積み上げることは、確実に連携強化につながっていくと考える。しかし、収容人数の多い会場を借りることができず、場所の準備(会議室に集まれる人数の設定・会議室の広さ確保等)が難しい場合がある。
組織としての方針で、対面での会議の参加が難しい事業所があった。
対面方式で開催したところ、新型コロナウイルス感染症者増加のために急な欠席があった。
コロナ禍で、多忙を極めている医療機関に、参加依頼をするのを躊躇した。
コロナ禍のため介護職員が不足している状況が悪化、会議へ参加する人員の確保が難しい事業所が多い。
オンライン開催でもマスクを着用されており、表情が見えにくいいため反応がわかりにくく、音声も聞き取りにくい。
Web会議ツールライセンスを取得していないため、取得している事業所に協力を依頼する必要がある。
参加しやすい会議にするためハイブリット開催(現地とオンラインの同時開催)としたり、意見交換を活発にするためにオンライン上でグループワークをする等、運営方法について検討が必要。また、円滑に運営するためのスキルも必要。
(参加者の課題)オンライン開催への慣れには個人差がある。インターネット環境、オンライン開催参加のための機材、対応技術には事業所間で異なる。また、参加できる事業所に限りがある。
(地域包括支援センター側課題)対面開催ができず、オンライン開催を実施していく状況が今後も想定されるため、オンライン開催の運営方法等、実践力向上が必要と考えられるが、知識や技術を学ぶ機会がなかったり、対応できる職員が限られている。
参加状況の課題
開催日設定時のリサーチが十分ではなかった。
開催時間帯に関して、すべての職種が集まりやすい時間帯を選ぶのが難しく、工夫が必要。
医療系サービス機関の参加が難しい状況であり、会議の目的である医療・介護の連携が図りにくい。
多職種連携研究会への参加事業所に偏りがある。各事業所での調整が難しいのか、職員自身の状況によるものなのか、詳細は把握できておらず、状況把握と効果的な周知等が必要。
枚方市医師会員向けにチラシ発送を依頼する等、周知活動はしているが、更なる周知活動が必要。

地域(連携)課題
コロナ禍における課題
地域のサロンなど、コロナ禍の影響で活動ができていない状況が続いている。
民生委員の訪問が、コロナ禍の影響で短時間の関わりになっていたり、電話をするが理解が得られにくい等、対応に苦慮している。
コロナ禍で対面での会議の機会が減り、地域と専門職との関わりが希薄になっている。
コロナ禍で高齢者の活動が制限され、身体機能・認知機能の低下が顕著にみられており、対策が必要。
新型コロナウイルス感染症に罹患した場合、行政も混乱している中、受け入れ先や対策等に苦慮していた。今後も災害時の対応も含めて、多職種がどのように連携を持ち、取り組めばよいのかが課題となっている。
関係機関の役割・機能等に関する課題
口腔ケアに対する意識が低い高齢者が多い。歯科医師だけでは管理が難しいため、多職種での支援をどうしていくかが課題となっている。
訪問歯科と他のサービスとの情報共有の場が乏しい。
入退院や施設入所した際の情報が、医院・薬局・歯科に届きにくい(退院後、入院前の処方と変更があるが、その経緯がわからない等)。
「在宅での看取り」において、医療・介護が同じ方向で支援を行うには、ご本人やご家族の意思確認が重要でACPの必要性を感じるが、医師でもタイミングが難しいとの話があり、ACP啓発の必要性がある。(認知症の方、独居の方、家庭内で意見の異なる場合のACP等)
癌末期等終末期に医療で訪問看護が導入されると、ケアマネジャーと利用者との関わりが希薄になる場合がある。終末期から死去までの経過が早く、短期で終了するケースにおいては、特に連携の難しさを感じる。
在宅看取りのケースはまだ少なく、専門職でも経験が浅い場合や関わる機会の少ない職種もあるため、地域全体でレベルアップしていく必要がある。
在宅看取りのケースは、家族に寄り添いながらチームで対応するが、そのためには、日頃の連携を深めておく必要がある。その為に、情報共有できるノートやインターネット・LINE等のオンラインツールを活用することも必要。
意欲低下等のために医療機関への受診ができず、サービスにもつながっていないケースに関しては、関わっている方からの情報は重要で、情報提供を切り口に介入できる場合がある。
両親を亡くし、孤立している若年層(50～60代)のケースが増えていると感じている。